

ゲストキュレーター末盛春彦からのメッセージ

(2023年4月15日、オープニングセレモニーでのご挨拶より)

本日は、雨にもかかわらず、お越しくださりありがとうございます。今回ゲストキュレーターを務めさせて頂きました末盛千枝子の次男・末盛春彦と申します。

展覧会の構想や企画はもっと前からあったのですが、私がアートフロントギャラリーの前田さんからゲストキュレーターのお話を伺ったのは昨年5月のことでした。聞いたときには、これは大変なことだと思い、ただただ驚くばかりでした。そして、絵本関係者でも美術関係者でもない私で良いのだろうかとも思いましたが、それでも、私にもできることがあると考え、声をかけてくださったのだろうと、引き受けさせて頂きました。

私は幼い頃に父を亡くしているので、父のことを人から聞き、想像して育ちました。その時、いつも頭の中にあるのは「ひとつひとつ丁寧に、コツコツ」という言葉でした。誰の言葉か、誰から聞いた言葉なのか覚えていませんが、いつもその言葉と父の姿はともにありました。それは、今回も同様です。

この展覧会を一言で言うならば「宝探し」がふさわしいと思います。私は、母の住む松尾の家や、世田谷の実家の整理された屋根裏に何度も登りました。その中から古い写真を見つけたり、雑誌の切り抜きを探したり、VIDEOやフィルムも見つかりました。それはまるで「グーニーズ」や、「ネバー・エンディング・ストーリー」のようでした。

私が子どもの頃に夢中になって読み、大好きだった井沢洋二さんの『あさ』や『冬の日』、『冬の旅』。松尾の家で『そらに』の原画を見つけた時には、その繊細な色の変化に魅せられ、前田さんと喜びました。『そらに』は、いつも私の仕事を助けてくれる柴田さんの手によって、アニメーションにもなりました。

ずっと探していたのにどうしても見つからなかったはらだたけひでさんの『たびのなかま』の原画が、大切に保管されていたのを見つけた時には、嬉しくて「やった！」と、思わずさけびたくなりました。

宮内庁からお借りした安野光雅さんの原画の立派な額装や、ニューヨーク・パブリック・ライブラリーから到着したゴフスタインの原画が入った重厚なクレートを見たときも「ついに来たか！」と思い、心が震えました。

世田谷の舟越の実家を訪ねては叔母の苗子に展覧会のことを相談し、その足で叔父の桂を訪ね、アトリエにも何度も通い、フランスに住む叔母の茉莉とも連絡を取りました。カナ叔母のところにも相談に行きました。祖母・道子の作品は苗子伯母と相談して決めました。

直木叔父の作品を世田谷美術館の収蔵庫で見せていただいた時の喜びも忘れられません。それだけでなく、祖父・保武の作品も貸してもらえることになり、岩手県立美術館からも貸し出しの許可がおりました。

同じく、次々と見つけられ、並べられていく母が作った絵本たちには、懐かしいものや、今だからこそわかる新たな発見もありました。それらの絵本を並べてポスターやチラシに使う写真を撮ってくれた友人の後藤渉さんは絵本に差し込む光をそのまま使ってくれました。

出展する作品がひとつ決まるたびに、作業がひとつ進むたびに、市原湖畔美術館の富樫さんが細かく丁寧に確認してくださり、前田さんとも相談させていただきながら3人で作っていきました。

その全てを、皆さんに見ていただけるようにするため、市原湖畔美術館の出口さんと戸谷さん、美術運送のカトーレックや美術屋のオフィス豊福の皆さんと遅くまで設営を行いました。彫刻の設営の時には、桂叔父も駆けつけてくれ、指揮をとってくれました。

また、並行して作っていた本には、母と相談し、カナ叔母の作品を使わせてもらうことになり、時間のない中、現代企画室の江口さんが編み進めてくれました。

そして、昨日、宝のありかを示す「宝の地図」のようなフロアマップが完成しました。これは今回使われているデザインの全てを組んでくれた友人の鵜飼悠太さんが作ってくれました。

このようにして、この宝探しは進んでいきました。

今回、私が、この展覧会の仕事を始めるにあたり、最初に読んだのが、桂叔父の『言葉の降る森』というエッセイ集でした。そこには「始めれば、そしてそれをつづけていけば、いつかは完成する。いつかはたどり着く。」と書いてありました。

この言葉の通り、今日、オープンの日を迎えることができました。

オープンさせるという作業を終えてみて、これを書きながら、津尾美智子さんの『パパにはともだちがたくさんいた』で描かれた父の物語のような、まるで絵本のお話のような時間だったなど、振り返ることができました。

今日、ここに立ってみて、今、自信を持って、この展覧会を皆さんにオススメしたい、そう思います。

展覧会の中で、何かひとつでも、印象に残り、記憶や思い出の中に持って帰っていただけるものがありましたら、幸いです。

ありがとうございました。